

「本を聴く 音楽を読む」

物語に登場する音楽は、読者と物語の世界の距離を近づけることができるのではないのでしょうか。そう感じるのには、視覚だけで行う読書という行為に、聴覚というもう一つの感覚が加わるからではないか、と考えられます。読書の楽しみの一つに「想像を膨らませること」があります。音楽にはそれを助ける効果があるようです。

本の中の音楽が大きな役割を果たし、クローズアップされることがあります。昨年、ベストセラーとなった村上春樹の『1Q84』の冒頭には、タクシーのステレオからヤナーチェクのシンフォニエッタが流れてくる、というシーンがあります。この曲が注目を浴びて、大変、話題となりました。『1Q84』の大ヒットも、シンフォニエッタという音楽が成した意味は大きいと言えそうです。『1Q84』に限らず、村上作品には音楽という要素が深く染みこんでいます。もちろん、村上春樹だけではなく、小川洋子や町田康、奥田英朗といった著者の作品にも、音楽は無くしてはならない存在感を示しています。

文学と音楽には密接な関わりがあるようです。少し気に掛けて、小説の中の音楽に耳を傾けてみてはいかがでしょうか。



シンフォニエッタ 小説に出てくるクラシック

小澤 征爾/[ほか]指揮
シカゴ交響楽団/[ほか]演奏
EMI ミュージック・ジャパン
2階 A101 シ (この作品は CD です)

小説『1Q84』に出てくるクラシック楽曲をほぼ収録している1枚。
小説の世界をより深く味わいたい方におすすめです。

※CD・DVD は予約できません。ご了承下さい。



意味がなければスイングはない

村上 春樹/著
文藝春秋
2階一般 760.4 ム

シューベルト、スタン・ゲッツ、スガシカオ…。月が消え、恋人に去られ、犬に笑われても、なにがあらうと音楽だけではなくすわけにはいかない。良き音楽のある世界の成り立ちについて、どこまでも語り尽くす全10編。



アンジェリーナ

小川 洋子/著
角川書店
文庫 B913.6 オガ

佐野元春の代表曲にのせ、小川洋子が心の震えを奏でて生まれた、美しい10の恋物語。物語を紡ぐ精霊たちの歌声が聞こえてくるような、無垢で哀しく、愛おしい小説集。

9月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

10月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30



じゃあ、読もう。

※毎週火曜日は休館日です。



第1回 自分発見の朗読ワークショップ



大好きなお父さんについて



恋の詩...



飛び入り参加!

“朗読ボクサー”
によるオリジナル
作品の発表

「詩のボクシング」とは??

ボクシングリングに見立てたステージ上で、2人の選手が交互に自作品を朗読し、どちらの声と言葉がより観客に届いたかをジャッジが判定する「声と言葉のスポーツ」です。3分以内の自作品であれば、詩や小説、ラップなどジャンルは自由。朗読ボクサーの年齢は幅広く、10代から80代までの老若男女が、自分の言葉を声にすることを楽しんでいます。

今回のワークショップでは、詩のボクシングの体験版として、創設者の楠かつのりさんに指導してもらいながら、様々なオリジナル作品を発表していただきました。



聴く方も真剣です...



楠さんの丁寧な指導!



愛犬について、



愛する家族のこと

「作品を声に出して読んだのは初めてです」「とても緊張しましたが、大勢の前に立つと違う自分になれた気がします」これは、7月31日に開催された「詩のボクシングワークショップin長崎 第1回 自分発見の朗読ワークショップ」に選手として参加した“朗読ボクサー”の皆さんの言葉です。初の試みとなったこのワークショップは、朗読の新しい楽しみ方、表現方法でもある「詩のボクシング」を通して、自分の言葉と想いを声にすることを楽しんでもらいたいとの気持ちから始まりました。

当日は約20名の朗読ボクサーの方々が自作品(詩や川柳、日記など)を発表してくださり、数々の個性豊かな感性に触れることができました。長崎市内にお住まいの藤崎さんが発表された「支え^ほ欲る 今日^はの夫らし暴言を吐きつつ その手 我が手に^{すが}縋る」という短歌は、認知症の旦那様との日常を詠ったもので、一人では生きていけない旦那様が、奥様の支えを必要としているのに強がるあまりに暴言を吐いてしまうという切ない気持ちに、会場の多くの方が胸を打たれていました。

講師の楠さんからは、作品の感想や作成に関するアドバイスがあり、発表者以外にもメモをとられる皆さんの姿が印象的でした。年間1000人以上の声を聴く楠さんですが、「長崎には才能豊かな人が多いですね」と9月に行われる「詩の

ボクシング」の本選への参加を熱心にオススメしていました。今回、小学3年生から80歳以上の方まで、幅広い年齢層に楽しんでいただけた「詩のボクシングワークショップ」ですが、9月11日には長崎市立図書館で本選が行われます。ワークショップに参加された方はもちろん、その他興味がある方はどうぞご参加ください。自由に観覧できます。お問い合わせは長崎市立図書館(〒850-0032 長崎市興善町1-1 TEL 095-829-4946)まで。あなたも自分の想いを言葉で伝えてみませんか?

CHICKEN!



「詩のボクシング
声と言葉のスポーツ」

楠 かつのり / 著
スズキ 書局
901:77

図書館からあなたへ…

♪ブック・バトン♪

今月のテーマ

愛

—このコーナーは毎月ひとつのテーマをもとに2名の図書館員がおすすめの本を紹介するコーナーです—

①「秘密」



②『生きてます、15歳。』



③『ツイ、ラク』



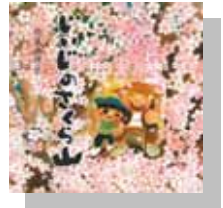
④『貝がらと海の音』



⑤『じいちゃんさま』



⑥『じいじのさくら山』



『秘密』 東野 圭吾 / 著 文藝春秋 B913.6 ヒガ 『生きてます、15歳。500gで生まれた全盲の女の子』 井上 美由紀 / 著 ポプラ社 289.1 イ
『ツイ、ラク』 姫野 カオルコ / 著 角川書店 B913.6 ヒメ 『貝がらと海の音』 庄野 潤三 / 著 新潮社 913 シ(4階書庫)
『じいちゃんさま』 梅 佳代 / 著 リトルモア 748 ウ 『じいじのさくら山』 松成 真理子 / 著 白泉社 日本絵本 マ

3 つ の 愛

世の中には、愛について語られる絵本や小説、実用書が溢れています。親子愛、兄弟愛、恋愛・・・、そんな中から3つの愛の形を紹介したいと思います。

1冊目は、東野圭吾『秘密』です。“運命は愛する人を2度奪っていく”。本屋で見かけた、この本の帯には、そう書かれていました。妻と娘を乗せたバスが崖から転落。妻の葬儀の夜、意識を取り戻した娘の身体には死んだはずの妻がいた、というところから物語が始まります。愛する娘であり、愛する妻である、その戸惑いや心の描写がとてもリアルに描かれた夫婦愛の物語です。

2冊目は、井上美由紀『生きてます、15歳。500gで生まれた全盲の女の子』です。超未熟児として生まれ、視力を失いながらも懸命に生きていく作者の言葉で綴られています。階段から落ちても手を差し伸べない母、ころんでも、ぶつかっても助けてくれない母、でもそれが愛だと伝わってきます。読者に生きる力を与えてくれる、感動のノンフィクションです。

3冊目は、姫野カオルコ『ツイ、ラク』です。物語は、ある田舎の小学校を舞台に始まります。中学時代を中心に20年後までが描かれます。初めて手に取る小説なのに、どこかで読んだことがあるような・・・そんな気分させられる恋愛小説です。文庫版に添えられた解説も一緒に読んでみて下さい。読者を納得させる、“そんな気分”を見つけることができるはず
(司書K)

無 償 の 愛

私の母方の祖父は、私が小学生の時に亡くなり、その思い出はぼんやりとしたものになっていますが、祖父がいつも私に優しくした事は記憶の中に染み付いています。坂の上に住んでいた祖父と手をつなぎゆっくりと階段を上って家へ帰った後、祖母へ「孫のおるってよかねー」と話していた事をとてもうれしく憶えています。おだやかな無償の愛がそこにはあったのではないかと、最近はそのようなふうに祖父母との関係をふりかえるようになりました。そのような「愛」をじんわりと感じさせてくれる3冊を紹介したいと思います。

まず1冊目は『貝がらと海の音』。老夫婦の日々の生活における、ささやかな喜びやおどろきを淡々と綴る小説です。息子夫婦、孫、ご近所様とのふれあいのなかに「ありがとう」「うれしい」などの言葉が多く登場するあたたかな作品です。

2冊目は『じいちゃんさま』。やさしくも滑稽なおじいちゃんの写真集です。梅佳代のおじいちゃんの懐の深さを感じる1冊です。

そして3冊目は『じいじのさくら山』。孫とじいじの心の結びつきを描く絵本です。絵がとても優れていて絵を眺めているだけでもストーリーが伝わります。お互いを思いやる心が読む人の琴線に触れる1冊です。
(司書Y)

寄贈紹介「田中児童文庫」



財団法人 田中奨学育成基金様が青少年健全育成活動の一環として、読書を通して豊かで明るい人づくり、社会づくりに貢献したいという趣旨で昭和 55 年に文庫を創設されました。

その後も毎年のように寄贈していただき、今年も 51 冊 (8 万円相当) の図書をご寄贈いただきました。これまでにいただいた図書は 1,998 冊になります。ありがとうございました。

「坂本龍馬パスファインダー」で長崎の歴史を知ろう！

パスファインダーとは、あるテーマに関する資料や、情報の探し方・調べ方を紹介したものをいいます。現在、市立図書館では 2 階で『龍馬を繙(ひもと)く』と題して坂本龍馬の特集展示を行っています。更に『龍馬を繙く道標』として坂本龍馬のパスファインダーも設置しています。

大河ドラマ「龍馬伝」も第 2 部が終了し、長崎も舞台となる第 3 部に入りました。坂本龍馬や長崎の歴史を知って頂けるように、本やインターネット、データベースでの探し方だけでなく、長崎市内の施設案内も加えました。龍馬の長崎での活躍を意識した内容になっています。無料で配布していますので、気になる方は是非、手にとってみてください。



図書館ラジオ 8月の紹介本

～テーマ「夏におすすめの本」～

毎月第 2 金曜日午後 2 時から、長崎シティ FM(81.3MHz)「ウィークエンドパラダイス 813」内の「ウィークエンドライブラリー」で放送中です！

【ふちなしのかがみ】

辻村 深月/著
角川書店
F913.6 ツジ

青春ミステリの気鋭が初めて
封印を破った現代の怪談！



予約ランキング ベスト10！

(2010年8月14日現在)

順位	タイトル	著者名	出版社	予約数
1	夜行観覧車	湊 かなえ	双葉社	385
2	プラチナデータ	東野 圭吾	幻冬舎	322
3	小暮写真館	宮部 みゆき	講談社	317
4	1Q84 BOOK3	村上 春樹	新潮社	217
5	カッコウの卵は誰のもの	東野 圭吾	光文社	211
6	天地明察	沖方 丁	角川書店	204
7	1Q84 BOOK1	村上 春樹	新潮社	197
8	新参者	東野 圭吾	講談社	163
9	Nのために	湊 かなえ	東京創元社	149
10	死ねばいいのに	京極 夏彦	講談社	146

※予約が集中している本は数ヶ月お待ちすることがあります。予めご了承下さい。

長崎市立図書館のホームページが リニューアルしました！

長崎市立図書館のホームページから、「としょかんだより」が読めるようになりました！「お知らせ・イベント」内より、PDF ファイルで閲覧できるようになっています。(表示には Adobe Reader が必要です。)

また、「こどもとしょかん」のページも新たに追加し、おはなしの会の日程などが確認できるようになりました。(携帯電話版からはどちらもご覧になれません。ご了承下さい。)

ホームページへのアクセスはこちらから ↓

長崎市立図書館ホームページ
<http://www.lib.city.nagasaki.nagasaki.jp>